

# 福井県鯖江市におけるデジタル人材育成事例

杉野谷 和孝

(受付：2023年8月4日 受理：2023年8月4日)

## 1 はじめに

社会のデジタル化が進展し、プログラミングスキルがますます重要となっていることを背景とし、2020年度より小学校でのプログラミング学習が必修化された。しかし、教員の指導スキル不足等の問題も顕在化しており課題は多い。

一方、福井県鯖江市ではプログラミング学習必修化の2年前となる2018年から市内全ての小中学校でプログラミングクラブを運営、翌2019年4月からは市内全小学校の4年生を対象にプログラミング学習を行っている。本稿ではその概要についてまとめる。

## 2 概要

### 2.1 鯖江市の概要

福井県鯖江市は、人口6.9万人（令和4年10月時点）の県内で人口が4番目に多い自治体である。

市の主要産業は眼鏡・繊維・漆器の製造であり、特に眼鏡のフレーム製造は国内シェア約9割を占めている。

### 2.2 ITのまちへの経緯と背景

先述の通り、鯖江市は眼鏡のフレーム製造をはじめとした「ものづくり」を主要産業としているが、いずれも生産数は年々減少傾向となっており、またそれ以外の目立った産業がない点が課題となっていた。

そこで目を付けたのがIT分野である。2010年12月、市内在住の若手起業家である株式会社jig.jpの福野泰介氏が当時の牧野百男市長に「市民とともにITをまちづくりの力に活用しましょう」と働きかけたことがきっかけであった。

### 2.3 オープンデータ化と地域でのプログラミング学習

ITを活用したまちづくりを始めるにあたり、まずは行政・民間が協力して行政のオープンデータ化に取り組んだ。しかし、行政が保有する公共データを公開しても、データを活用したサービスを作るエンジニアがいないとデータが活用されない。そこで鯖江市出身のNPO法人エル・コミュニティ代表である竹部美樹氏がHana道場（ITものづくり拠点）を開設し、子ども達にプログラミングを教える活動を始めた。

指導にあたっては、福野氏が開発したプログラミング学習用PC「IchigoJam」を採用した。このPCは1,500円と安価で入手できる為、1人1台の環境で学習できる。また、ネット接続が不要の為トラブルが少ないのが特徴である。

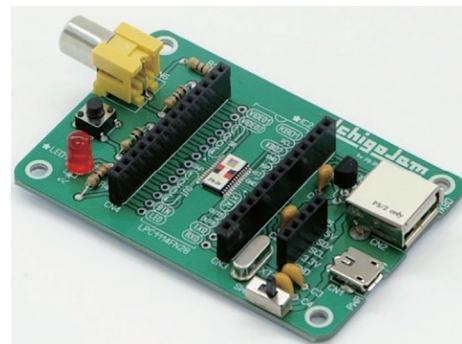


Fig. 1 IchigoJam 本体

### 2.4 小中学校でのプログラミング学習

鯖江市のプログラミング学習は民間主導による地域活動の1つであったが、2014年より、鯖江市内の小学校数校から取り組みをスタートし、2018年4月からは、市内全ての小中学校でプログラミングクラブを開始することとなった。そして、翌2019年4月からは市内全小学校の4年生を対象にプログラミング学習を開始した。

指導内容は、IchigoJamを活用したBASIC言語によるLEDの点滅から簡単なゲームの打ち込み、そのプログラムの改良となっている。2回目以降も短いゲーム等のプロ

グラムを用意し、回ごとに楽しく学べるように工夫がなされている。更に学校の授業やクラブ活動でプログラミングに興味関心をもった子ども達は先述の Hana 道場へ行きプログラミングの知識をより深めている。

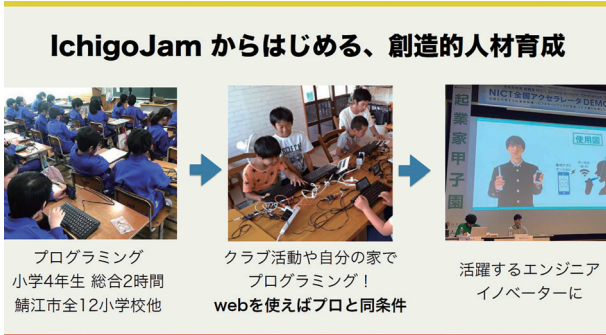


Fig. 2 IchigoJam 活用による人材育成

### 2.5 小中学校での指導人材育成

冒頭で挙げた通り、多くの自治体ではプログラミング学習における教員の指導スキル不足が顕在化している。そこで、竹部氏は Hana 道場で「大人のためのプログラミング入門講座」として、指導人材の育成を始めた。

この講座は国の補助金等を利用せず、民間の事業として受講者から受講料を集めて実施しているのが特徴である。プログラミング初心者を中心に数カ月間講義を受けた後、実際に小中学校へ指導員としてサポートに行っている。

### 2.6 鯖江モデルの横展開

これら一連の取り組みが評価され、2019年には KDDI 株式会社、株式会社 jig.jp、NPO 法人エル・コミュニティの3者によるプログラミング教育の環境整備や地域教育人財の育成を協力して推進することを目的とした包括的パートナーシップを2019年7月に構築した。翌年の2020年2月には福島県磐梯町でプログラミング教室を開催している。

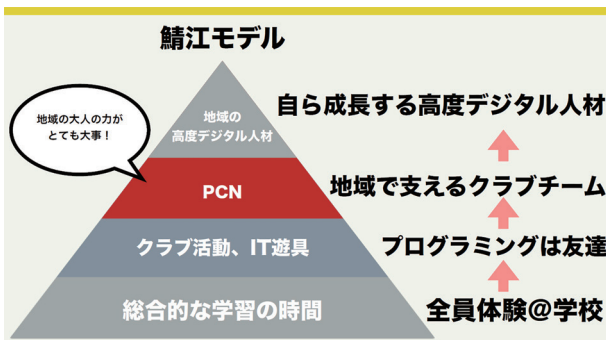


Fig. 3 鯖江モデル

## 3 おわりに

本稿では、福井県鯖江市におけるデジタル人材育成の事例について取り上げた。

ここまで述べた取り組みは全て市民が主導となり、行政は市民をサポートする立場となっている。

小学校におけるプログラミング学習は始まったばかりではあるが、指導人材の育成、確保をどのように行うかが鍵であると考えられる。鯖江市のように民間主導による指導人材育成の事例が広まると、昨今話題のリスクリングにも繋がるだろう。

デジタル人材不足とされている中で、このような取り組みが全国に広がることを願っている。

## 4 謝辞

本稿執筆に際し、株式会社 jig.jp 代表取締役社長福野泰介氏、NPO 法人エル・コミュニティ代表竹部美樹氏にご協力をいただいた。この場を借りて御礼を申し上げる。

## 参考文献

- [1] 柏崎 吉一. “IT をメガネ、繊維、漆器に続く第4の産業に、鯖江市”. 新・公民連携最前線. 2017/5/15. <https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/041700013/?P=1>.
- [2] 竹部 美樹. “プログラミング教育は「メンター育成」から、鯖江市ではシニアが活躍”. Forbes Japan. 2019/4/24. <https://forbesjapan.com/articles/detail/26870>
- [3] KDDI 株式会社. “KDDI と jig.jp、エル・コミュニティ プログラミング教育の環境整備および、教育人財の育成に向け包括的パートナーシップを構築”. KDDI 株式会社. 2019/7/23. <https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2019/07/23/3926.html>